

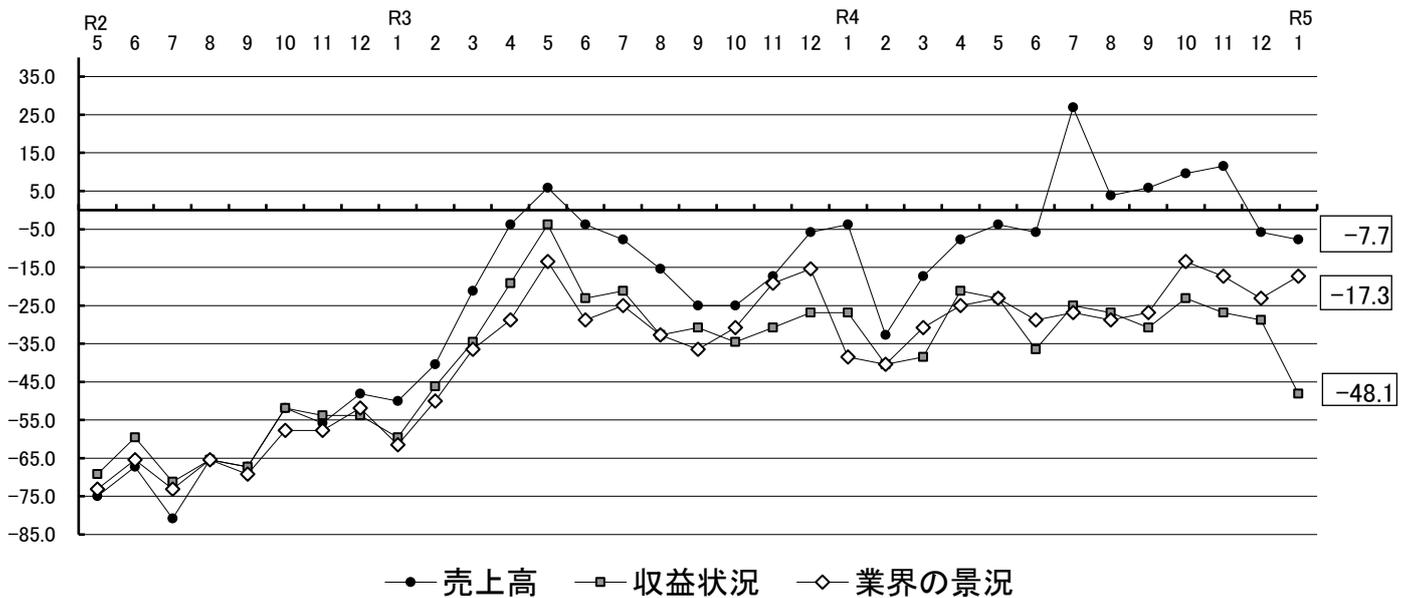
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和5年1月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員52名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は、「収益状況」が大幅に下降、「売上高」は微減、「業界の景況」はわずかに上昇した。
- 製造業で「一般機器」「木材・木製品」、非製造業で「小売業（飲食業含む）」が依然として厳しい。
- 原材料・エネルギー価格の高騰による収益悪化や部品不足による減産など厳しい様相が見られる。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-7.7	-1.9	-6.8	-6.0
収益状況	-48.1	-19.2	-33.2	-4.0
業界の景況	-17.3	+5.8	-25.2	-3.7

### 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より1.9ポイント下降し、-7.7ポイントとなった。全国においては、前月より6.0ポイント下降し、-6.8ポイントとなった。

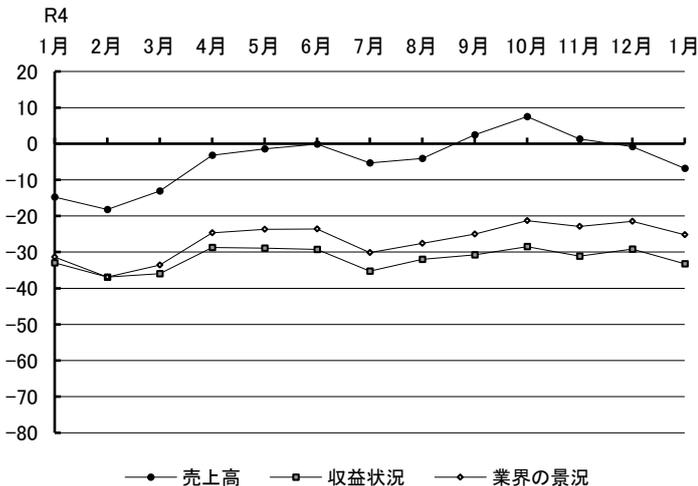
### 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より19.2ポイント下降し、-48.1ポイントとなった。全国においては、前月より4.0ポイント下降し、-33.2ポイントとなった。

### 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より5.8ポイント上昇し、-17.3ポイントとなった。全国においては、前月より3.7ポイント下降し、-25.2ポイントとなった。

全国集計結果の推移



## -概況-

1月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中6指標が下降した。主要3指標は「売上高」は1.9ポイント下降、「収益状況」は19.2ポイントの大幅な下降、「業界の景況」が5.8ポイント上昇となった。

連絡員からの報告によると、「一般機器」では、売上高がほぼ前年同様の組合員企業が多いが、仕入資材は引き続き高値傾向にあり、収益が悪化している。また、企業によっては人手不足が深刻化している。「鉄鋼・金属」においては、自動車関連でコロナの影響や部品不足による減産にて生産計画の見直しと調整に苦慮している。金型関連では、現状の受注の確保は出来ているもののエネルギー関係の価格転嫁が厳しい上に、春先からの話題に乏しく先行き不安が大きい。

非製造業においては、「運輸業」で昨年に比べ輸送量の改善傾向が感じられるものの、一部で自動車メーカーの減産により原材料の入在庫が少なくなり輸送量減となった。併せて自動車部品の梱包を主としている組合員も同様に輸送量が減少している。

当月も、売上の減少傾向に加え経費も上昇し苦しい状況や人手不足により通常の生産体制に戻れないとの声が上がっている。多少の価格転嫁を行っても、原材料・エネルギー価格の高騰が大きく収益は悪化しているなどの報告が多く、今後も予断を許さない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	50.0	50.0	50.0	-25.0	-25.0	-25.0	25.0	25.0	0.0
繊維・同製品	25.0	0.0	0.0	-25.0	-50.0	-25.0	0.0	-25.0	25.0
木材・木製品	-33.3	33.3	-33.3	0.0	-100.0	-33.3	0.0	0.0	-66.7
印刷	-100.0	0.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	-75.0	25.0	50.0	0.0	-50.0	0.0	0.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	0.0	-50.0	25.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	0.0	-25.0
一般機器	-25.0	-25.0	25.0	-50.0	-50.0	-50.0	-25.0	0.0	-50.0
製造業	-12.5	4.2	20.8	-16.7	-54.2	-33.3	-8.3	-4.2	-29.2
卸売業	66.7	0.0	100.0	33.3	33.3	0.0		0.0	33.3
小売業	-57.1	0.0	-14.3	-28.6	-85.7	-57.1		0.0	-42.9
サービス業	0.0		50.0	-16.7	-50.0	-50.0		0.0	0.0
建設業	0.0		20.0	0.0	-40.0	-20.0		0.0	0.0
運輸業	0.0		-25.0	0.0	-25.0	0.0		0.0	0.0
その他	0.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-7.4		0.0	22.2	-7.4	-40.7	-29.6	0.0	-7.4
全体	-5.8	-9.8	2.9	21.6	-11.8	-47.1	-31.4	-8.3	-2.0

図表2 【指標別DI値の推移】

	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年 1月	前月比
売上高	-3.8	-32.7	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	26.9	3.8	5.8	9.6	11.5	-5.8	-7.7	-1.9
在庫数量	-5.7	-8.6	-20.0	-17.1	-14.3	-5.7	-11.4	-5.7	-14.3	5.7	5.7	-5.7	2.9	8.6
販売価格	9.6	15.4	21.2	25.0	25.0	23.1	32.7	30.8	30.8	36.5	34.6	30.8	23.1	-7.7
取引条件	-5.8	-5.8	-7.7	-7.7	-9.6	-9.6	-9.6	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-7.7	-11.5	-3.8
収益状況	-26.9	-40.4	-38.5	-21.2	-23.1	-36.5	-25.0	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-28.8	-48.1	-19.2
資金繰り	-15.4	-26.9	-21.2	-13.5	-11.5	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-21.2	-30.8	-9.6
設備操業度	-8.0	-28.0	-12.0	-20.0	-16.0	-20.0	4.0	-12.0	-12.0	4.0	12.0	0.0	-4.0	-4.0
雇用人員	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-13.5	-13.5	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-3.8	-1.9	1.9
業界の景況	-38.5	-40.4	-30.8	-25.0	-23.1	-28.8	-26.9	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-23.1	-17.3	5.8

## 特記事項

### 情報連絡員報告（令和5年1月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	売上等は前年をクリアしているが、原材料・光熱費の高騰による影響が大きい。人の動きも多くなり、場所によっては増加に好転しているところもある。
	あん類製造業	コロナ政策の緩和により、商品が動くようになった。ただ、原料の値上り分を卸値に価格転嫁できず、苦しい企業が見受けられる。
繊維工業	縫製業	昨年度と比較すると上向きではあるが、諸経費の増加分まで価格転嫁されていないので、厳しい状況が続いている。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	前年同時期に比べ、売上は減少し経費は上昇するという苦しい状況が続いた。社会情勢から「今は仕方ない」と思うところではあるが、取引先との会話でもため息が多くなってしまった。ただ、中国の春節が終わりコロナの影響は最小限に留まっている様子。想定よりも早く中国経済は回復しているようで、繊維関係の仕事も徐々に回り始めているという情報も入ってきている。
木材・木製品	一般製材業	新規住宅着工件数の減少及び住宅ローン金利の懸念から、先行き不透明感が否めない状況だ。
	家具・建具製造業	家具等については、消費意欲の減退により売上が減少傾向にある。原材料の価格高騰を一部販売価格に転嫁する環境ができてはいるが、十分とは言えず収益状況は依然厳しい。
印刷	印刷業	例年、官公需の発注時期であるが低調。1月に用紙価格の再々値上げがあるが、価格転嫁しづらく採算を悪化させている。
窯業・土石製品	石灰製造業	昨年と比較して、鉄鋼向けは増加、建材・肥料関係は減少、全体では減少した。
	陶磁器・同関連製品製造業	正月の来客はあったが、中旬以降は寒さもあり減少気味だ。毎年2月は売上が落ちるので作品の作り控えをしている可能性があり、焼物屋も本格的に製造していないようだ。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	自動車関連においては、年末の「増産予定」から年が明けて一変、コロナの影響や部品不足による減産にて生産計画の見直し・調整に戸惑う厳しいスタートとなった。金型関連においては、現状の受注は何とか確保しているもののエネルギー関係の価格転嫁が厳しい上に、春先からの話題に乏しく先行き不安が大きい。 年明けから、新型コロナウイルス感染・濃厚接触・インフルエンザ感染と休業者が多く、人手不足により通常の生産体制になかなか戻れない状況が続いている。全てが物価上昇の中、減産影響もあり残業時間も減少傾向、賃上げにも至らず厳しい。
	金属製品製造業	自動車部品関連・機械設備関連・プレス金型関連、いずれも主にコロナ禍による売上不変、人件費増加、人手不足、原材料仕入単価の上昇が見られる。
一般機器	一般機械器具製造業	前年同月と比較し、売上高はほぼ前年同様の組合員企業が多い。仕入資材の状況は引続き高値傾向であり、電気料・消耗品等高騰の懸念が継続している。収益状況は全般的に不変。操業度はほぼ前年同様、企業によっては人手不足が深刻な状況も見受けられる。今後も新型コロナウイルス感染状況や、ロシアによるウクライナ侵攻による化石燃料の上昇や物価上昇等、懸念材料が多々ある。

	一般機械器具製造業	多少の価格転嫁により生産高は増加傾向にあるものの、原材料・エネルギー価格の高騰により収益は悪化している。
卸売業	化粧品卸売業	2023年4月から更に値上げ予定のメーカーが増えてきている。
	各種商品卸売業	一部業種を除き、売上高・収益・業況等は前年同に比べ好転とする企業が多かった。仕入単価上昇の影響により利益率は減少とする企業もあった。
小売業	食肉小売業	コロナ禍でも規制緩和で少し動き出した状況だが、消費者の買い控えて売上げが伸びていない。
	各種商品小売業	1月も商店街の来街者数は減る傾向で予断を許さない。飲食関係は戻りつつあるが、物販関係はまだまだである。新入学・新就職期の春に期待したい。
	花・植木小売業	暦の関係で年末に施行できなかった葬儀の通夜が年明け2日からあり、正月3が日は忙しかった。その後も引続き葬儀施行件数は多い印象。主力商品（菊・ユリ）の高値安定もあり仕入れ代金の支払いに苦労した花屋も多い。婚礼は低迷が続く。小売は、ハウスユースの需要が多少あったものの低迷している。
サービス業	自動車整備業	繁忙期に入り、人員の減少が業務に影響を及ぼしている。採用も困難な状況である。
	ビルメンテナンス業	他社との競争環境が激化し、福祉用具の販売・レンタルの売上が減少している。廃棄物処理業界は安定した売上げが見込める状況にある。
	給食センター	原料である生鮮食品等をはじめ、電気・都市ガス代の大幅な上昇により経営状況が非常に圧迫されている現状だ。B to Cの立場からほとんど価格転嫁できていないのが課題となっている。
建設業	職別工事業	対前年同月と比較すると工事受注高は増加したが、原材料費等の増加により収益面は同等となった。4月以降の賃上げについては、未定もしくは変更なしとの企業が大半を占めている。
運輸業	貨物自動車運送業	昨年に比べ輸送量の改善傾向が感じられるものの、一部の組合員では自動車メーカーの生産減により原材料の生産調整のため入庫が少なくなり、輸送量減となった。自動車部品の梱包を主とする組合員も同様に部品の入庫が減少した。
	貨物軽自動車運送業	例年通り、年始の動きは鈍く、上旬は低調な推移。中旬の日本海側での雪の影響で動きが活発になり、車の手配が厳しい日があった。季節がらイチゴの配達等もあり、何とか持ち堪えることができた。
その他の非製造業	大谷石採石業	組合員は昨年と変わらず推移しているが、飲食店などは冬場という事もあり、例年通り入込客数が少ない状況である。